

1 導入目的等について

(1) 趣旨

爆発が原因の外傷による四肢の切断などで生じる「**大量出血には、ターニケットを用いた止血が効果的**」とされていることから、テロ災害等への対応力向上を目的に、「東京DMAT現場携行用資器材」として、新たに導入するものである。

(2) 過去の大規模イベントにおけるテロ災害

【大規模イベントにおける過去の主なテロ事件】

発生年	内 容
2013年	ソチ冬季オリンピック開催前におけるボルゴグラード(ロシア南部の都市)路線バス、鉄道駅、トロリーバス自爆テロ事件
2013年	ボストン・マラソン爆弾テロ事件
2015年	パリにおける銃撃・爆弾同時多発テロ(サッカー親善試合中の国立競技場付近で発生)
2017年	英国マンチェスターのコンサート会場入口付近での爆弾テロ事件
2018年	フランス東部・ストラスブールでの銃及び刃物で通行人を襲撃したテロ事件



ロンドン同時多発テロ(平成16年)



ボストンマラソン(平成25年)

(3) ターニケットの効果

(用途) 爆発等による四肢切断や四肢の活動性の出血を伴う外傷に対し、速やかで確実な止血に用いる。

(効果)

- ターニケットは、環状になったバンドに腕や足を通して締め上げるだけで止血できる仕組みで、従来の包帯状（エスマルヒ型）のものに比べて時間を短縮できる。
- 現場における四肢の活動性の出血に対し優れた止血効果を発揮する。
- 爆発による外傷では、傷病者の約60%に四肢の止血処置が必要であり、迅速かつ適切なターニケットの使用により、防ぎ得る外傷死を減少させることができる。
- 止血は秒を争う救急処置であるため、素早くかつ確実に装着することが求められる現場において、迅速に装着できる。



使用前のターニケット



装着方法



装着後

2 ターニケットの活用方策等について

(1) 整備数

- 品名
四肢用止血帯（コンバット アプリケーション ターニケット 通称CAT）
- 整備数
東京DMAT指定病院（25施設）1施設につき5個
現場携行用資器材として、今年度中に配布予定

(2) 東京DMAT隊員への教育(ターニケット取扱講習)

- 受講対象者
各施設の東京DMATに係る指導的立場にある医師等（1施設あたり3名程度）
- 講習実施日時
平成31年3月27日（水）（午後1時から2時間程度）
- 実施場所
東京都健康プラザハイジア（新宿区歌舞伎町二丁目44番1号）
- 講師
7名依頼予定



項目	内容	時間
① 爆発等による外傷における止血の意味	・爆発等による外傷の特徴について十分理解する ・爆発等による外傷に対する止血の重要性を理解する。	20分
②出血の病態と止血の理解	・出血の病態を十分理解する。 ・止血できる出血とできない出血を十分理解する。 ・止血の機序を理解する。 ・止血方法について理解する。	30分
③ターニケットの原理と使用方法	・ターニケットの原理について理解する。 ・ターニケットの適応とその使用方法をしっかりと学習し、その有用性を理解する。 ・使用方法を習得する。	60分
④受講者からの質疑回答	・受講者からの質問に対応	10分

(3) 今後のスケジュール(案)

- ✓ 平成31年2月28日 平成30年度（第2回）東京DMAT運営協議会での承認
- ✓ 平成31年3月27日（予定）東京DMAT隊員に対する「取扱講習実施」
- ✓ 平成31年3月下旬頃 東京DMAT指定病院への資器材配布
- ✓ 資器材配布後 各施設において、ターニケット取扱講習受講者による院内研修実施
- ✓ 院内研修日以降順次 東京DMAT現場携行用資器材としての運用開始